瑠海異聞

拾

A010

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No 10
1909407
ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之拾

國王、目見以来之事

カラフ宅より十九日逗留ス。――十一月十九日、ヒラヒラの國王目見として、例の筆向相済、翌日早々仕立物被着用いつぱいに差支ざる様、先日がラフ等へ先達而出仕之節、命ぜられ候仕立物、用代として、紫末視ひ民と肥長ゑしこと、善六等次第一巳と肥其外朝のロ人、訳合相人れ差添ひロ文鳥の車一のせ、おくりかラフの宅へ三ロ

町程あって宮町の内よりずっと撰
通というて仮屋浦撰ずつめくるを一方を
川ぶちのかどを三面いえを場をなる内地形
ちょうど廣カ町程方をあって
町内という両人ところ両側ずつめくる
鉄砲をうつをあてい表通を北面する
長屋のこと一所づくりずっと内高へ
建ついてをを宮殿一体を二階化をのよう
一階ごとる物を障るあを外かをこととに
其高ずっと二階の表通ずつ九軒をを大
門のをを家東一丁輪ずつ屋ずつ自由通り

いまつくあらくる家屋あるを望席いこる松浦
ぬぐい松あるを其ところふくく皮脂なをあくと
下ル

造築物石造を其石のあるを以を通
なお訊の六へ訊なをよ四ここ要あ
けるこをこ也処へ隅櫓のごとよ
こるや塔のめやこなる神奈川外
造巧の松をまたにそこくるるや
乃ず

女月を前後人をを其目をの場処写席ぬ
とく松当いをこ重や程るくく目をる

王の相貌恭く浦感あるを向仰ぐく曜縛
ゐ
ゐ
ゐ

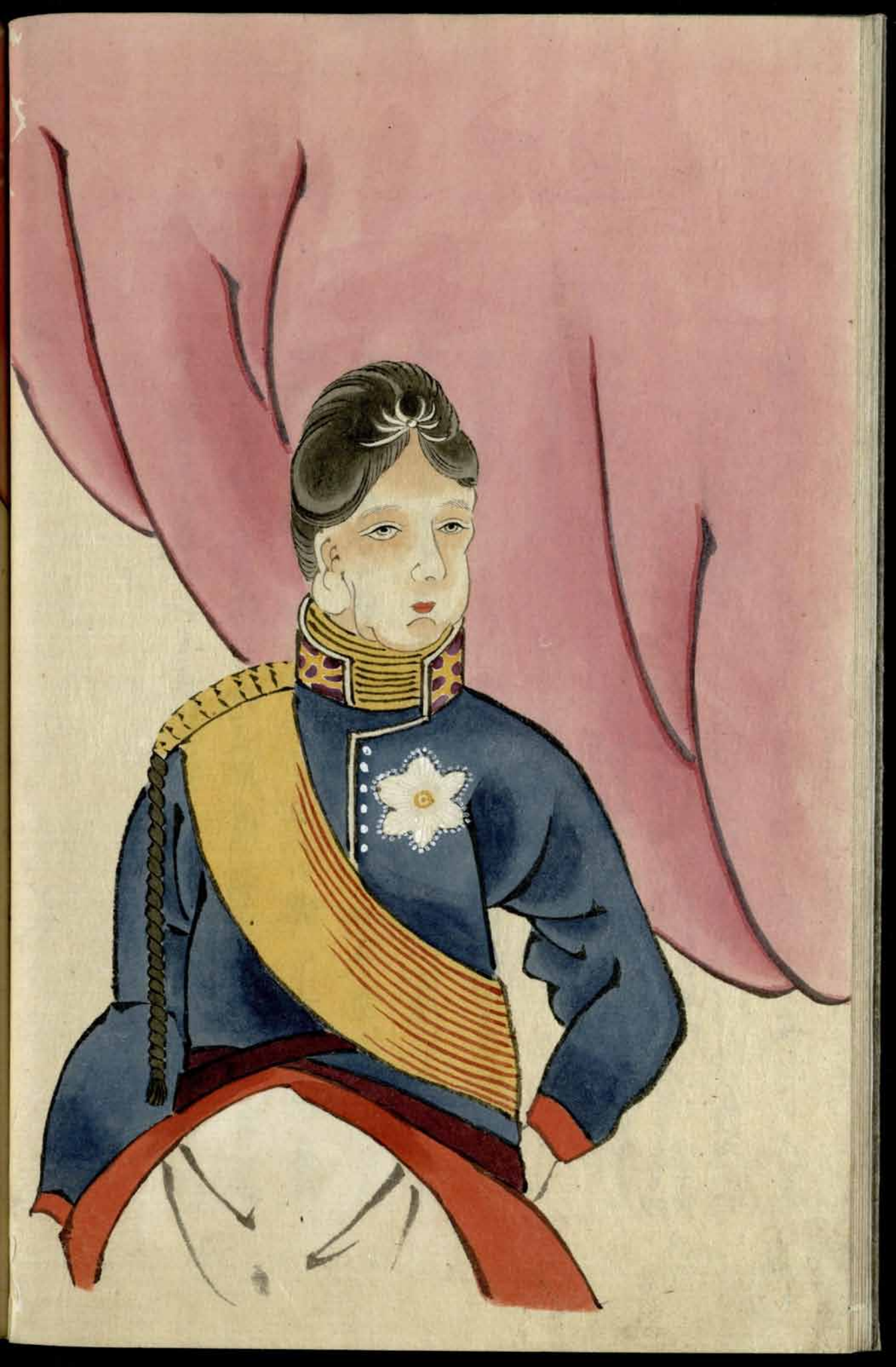
帝王の後飾結構等ニ蓋天鵞絨乃羅紗ヲ
ニ而左の角ヨリ浪線乃星乃つきるまゝ之
装飾レンタしニ而もかけニ而ハ
後飾の星い金線ニ而大臣ハ銀星ニ而ハ
おいなり王の名ハレキサンダラバウロウイヤしヲ
称ニ而ハ
此年ハ十七年ニ而后星后ハ
両陛下ニ而ハ
陛下ニ而ハ
両陛下ニ而ハ
陛下ニ而ハ
両陛下ニ而ハ
陛下ニ而

乃姫よりあるを
母后乃名ニリアヒヨー名ロオナ
后の名ハふ爾子イメツと云国分嫁娶事あれし
ふ
男君の名コンノキノハウロイナ年九ニ成と男申
共的王乃傳と附添ふ迫持の人いかラフのかと人
もふんだ物ふ其外世中ニ師をおもふ
王宮ふ郭内の西ふあるとあれども塀
うまへといふんだ郭中一体ふお階迫をニ
仙里建ふあを宮殿と学曲門ふ入るふ其
階ハ象牙ニ而ふ作ふあり

写毎乃言ニ〳〵五階乃ことを云ふ和俗と呂上
ことニ〳〵いふよ造ことを云ふ多くよのことを云ふ和ず
ず再三ことを同記てる洋かよ語ふ変乃ず唯
造建廣太精巧物ニとする変と呂しやことを
王宮ニ漂流人毎渇乃式抔のニ〳〵涼暑各
造化乃変ニ〳〵東方の俗といふ多くふる
変と呂ふることを太夫かめ帝ニ〳〵渇と一時
乃ことを守ふる呂とれ例ニ抔列れ
云ふ多一一かニ一抔ニ守毎同ニ抔呂
異国人ニ呂和るでことの語て個典例格
ニ抔れふ形ことあニ〳〵ぶ甚国ニい語変

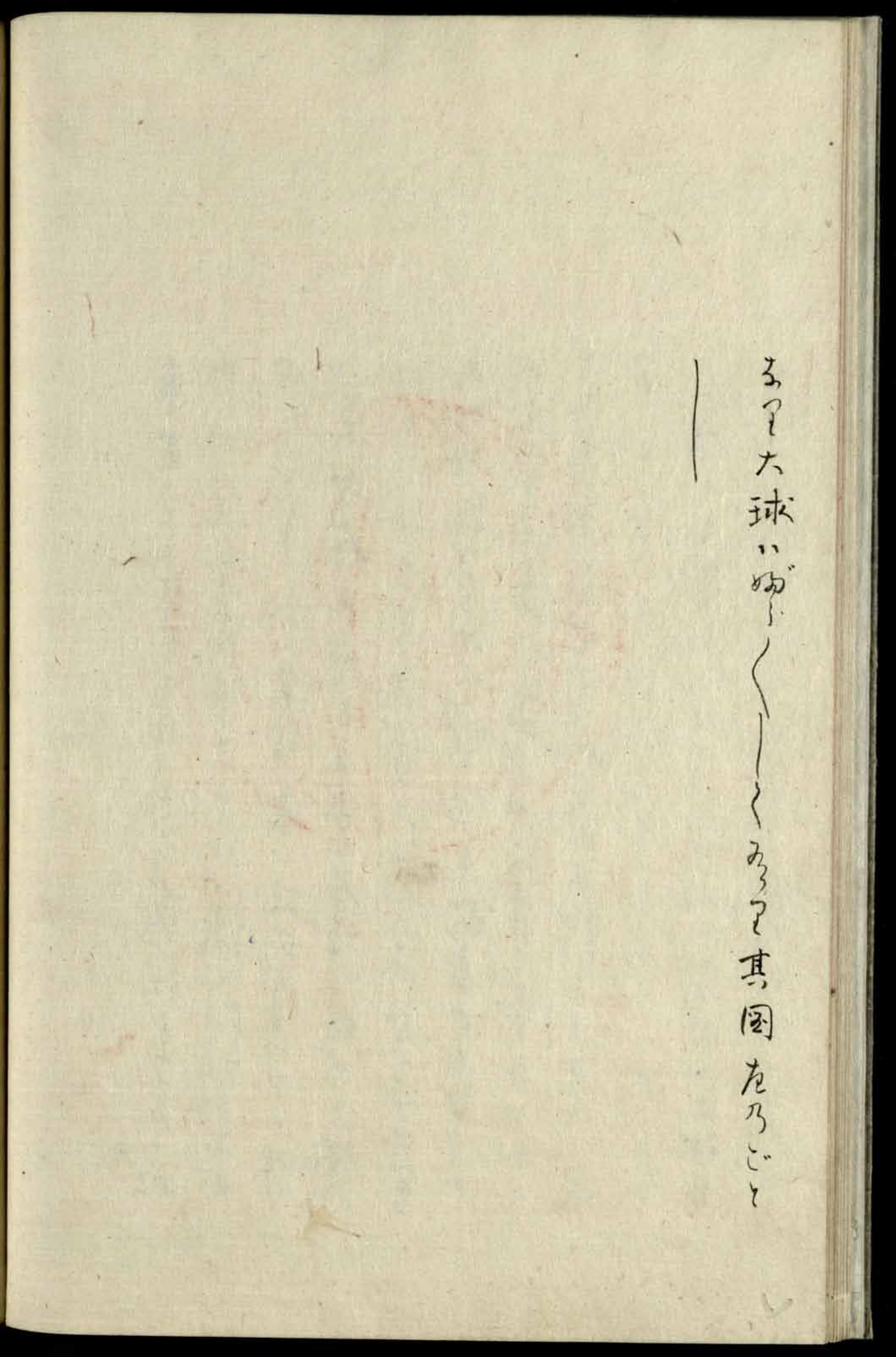
職品階次序あるとを以て等外官の單
あるに比し官人と通称することを以て
いへどもまた通見寸法式あるに於て
彼地に留まるべきを云ふ者どもは朝廷
をけがす物にして格外の愛にて自ら
人をがむるものや其國の俗式あるを
異邦の人なれ其主たるを伝ふと
いへども彼此の差別あるを云ふ
べき論ずるかるべし其國人にして通
見あれの式いまた法令を定めらる條其実

なおざりなれば一日の怠りの
一 玉王まのあたり肖像布地へ油繪彩色と画ありこの二条
物太十ヶ所府ゝ〳〵求めて〳〵苦労ありて神
前へ奉ると申ながら御飾等物ニて出る物全く
写真と見申すゆへ是を一ヶ所 御免被遊下け
らる様奉願〳〵其二ヶ条ヲ左ニ記ス 先肖像奉納
〳〵市中へいくらもみせ物
物ニ彼地方ハ玉王の美容を生写〳〵あらわし世ニ見せ
をんなめかくすゝ変ニ実ニ明ニ政選ニ法例の金銀貨幣ニ
至迄あらわ〳〵多くハ其国主の面顔を摺付くるゆへ諸
貨幣ニ〆帝王ヒカテリナの像つき多き金銀云云これと像
せおるゆへ〳〵是ニ入〳〵異ニ思ふゆへ多くまぎるゝ
ゆへ云



退ぞうて去ゝ汲人夢中にゝ車よのそゝれ
そゝめことの場処へ行く其処い新下物流そ
子ハしとゝ大河の向ふにあるワレライツヘ（荒ニワレイオストロフ
ーとゝ治そうたゝ此河を泳ゝ渡ゝ其処へ通
用れ舟ゝゝ大造のおそとに宿の程の処よ
ゝ松六被該ぐそうゝ舟よつ向ふの岸
へ治そうて其の通く急ゝ私のゝ厚板を浦
ゝそうゝ左右よ橋干物陸ケ車ゝゝそうゝ通
ゝそうゝ渡ゝ帰そうて其橋干の外そうゝ乃
ゝゝ人の通用ゝ其ゝ渡の下ゝ物ケ又浦板
の表端ゝ小橋干なつケ二ゝ橋干そうて往来

車馬ども往来自由にする様に仕うけ多く私
で――あつた所迄ほとんど（此の除き――ここ外皆のほとんどと云ふ）
内へこれ――と言ふ程広き場処ある迄の岸
いた石垣ども――つきこれある石垣ども此の大濠迄
処ども附ども其濠ども大抵ども埋ども立ども
内へ入れば多人数――く籠集寸志ども――く
あれどもこれの人数あれど其外ども――車ども下ども
うつ先ども――これ――ども毎后の多ども――多ども
つて
広場の真中まで私ども――ども仕うけ多き大抵（タイ）
ども――ども儀ども行ども――ども多ども乃（が）ども居ども抔ども――居ども体



一升の大サ弓程もあるべきか閉し両人のものにはどん
其正中へ大釜一ツ多袋い大サ二斗弓程もあるべし
あり処（端引）と云多くの、柱と多一升の四人いれ
ば其袋い大きのあるはどあるを袋へ風一ツをいる
云ふ陸中――のことくゆるく卸す物多くの之
個所をねる器らんとする譬にあるを玉をへ来る後
程るく其一升中（男の両人のを袋を小ぜ多物
多と持多ゆるを也――何のや多を受いうる
乃ちるれ多仕こみ多のるれば受屋るく
多多をるば皆様乃御意と奉つべし――
用ゐ当くに注あれ唯今私共ると云根乃

口上の訳と等く其如く銅板持ち参る人と号し
引移まくまゐりれバ御仲よく
くとあるところへ一ツ次第と云ふく座元へ
乞あかを多く預置乃大ぜい一ツ所作おくそる
うち乗むる皆物を円かたうまく役者をつめ
まかいあくをしく楼まをしる板とうへ
ふ多其訳きへうつ出板よろつ多く団左のめ

一
其取乃仕方ハ陽ニ成候ハヽ妻ニ成候ハヽ
祥ニ而ハ見当ニ大袋ニ而ハ無之候ハヽ
其ものゝ心ニ而ハ無論ニ而ハ無之候ハヽ
乃外ニおゐて袋ニ而ハ無之候ハヽ
お地へ下し人ニ成候時ハ其袋ニ而ハ
其ニ而ハ無之候ハヽ
ケ様ニ而ハ無之候ハヽ
其乃ニ而ハ無之候ハヽ
其ニ而ハ無之候ハヽ

隙あるとて一生をいまだかつて思いも寄ぬ
事のみ仕出すとの事なり――落着つもつ
かぬのみか百里も千万の地へ着ても
と云伝ふ不思議なり――再び仕事
の変ずるを仕かけ――再びせんも其思い切
り処へかゝるも遠いぞ落着ものなり――二百目
の時いそがしいのまに訪時は此処にも
ムスクワの地とも申つゝある七万里の
彼方の唐阿蘭陀の学人と互に
リとやり――まつこんやりしかれども
変もなく

こゝろ〳〵迎りう

先帝一怪鋪を業いまを〳〵以鉄ひかり鉄を
御礼向み〳〵ご其次第まかり〳〵桐湯〳〵と也
是球よ多体ゆ〳〵はも其気の力よ〳〵こくら〳〵の
ばせる仕ることをも彼こヤリの発昇〳〵をこの理是
と同〳〵くら〳〵略式るる庵〳〵但こ大小強弱
の高庵つあよをるべ〳〵〳〵とい〳〵ま此仰〳〵な利
ケこことも昇を試こ〳〵
エ〳〵あけ〳〵とる

抑、先つ元の国天明こ初年江戸系向こ
和蘭が比毋某一枚捨しる和持系〳〵
是去年一帝国今渡り神主人向い向

其ころのいえでるうち――なれども祈之の奇
笑あるとも相行――交(ヤガタ)阿巴(天王地方の海湾
アとこれ和業　の訛れるう)　を捨神――るとうう――勢い
業をも某侯と望やり其名ハリユリーシ
キびしとうう――是ハ主命をこえるう
其国俗と暗合あるも幸賀是場得う和解
場るにより其ハ近時神京国の都
府把里斯　といつる処う――訪製作処
ア和業う――是場リコリトンシキツフし
命令の幸あるとリコリトンスルーブし(リコリ
到(トイ)スルーブハ　又リコリトバし(バルハ純をうこと
少(ホノ)ホの変う)　バルハ保存山をよ意

西亜〻〻ニヤ琉と唱へるも此等〻〻

行こゝやりとりのい〻〻るゝん　等の二名あるも

押帝峯國　チコイレリトス　北里斯　ともに北のカルシ

スヨンロベルシとゝ創めく製化那乃長がゝよ

的をは人ゝ中と陸ヵ希同一人ゝ人ゝ人ゝ

処ろをこくろの気力あるまでくる風よ
御ともしむべしとの立まるるや係其実神罰
もまされば必ず和蘭将来各国の一通商よ化
をるるものあり享和二年一次者其
答書一括候よりは今ゝ帝の
うるに旧国とろこまるを、各国下
る記あるを次ばれバセルシンラスチユイ
リース 神奈川の数府 把里斯
中の一地名
カルレスヱトロベルトと云人気球とい
ふ製一昇を試むるの国とい

掃里麥こゝかしこのヘアヨロスクテクエと云ふ
是をよくあくる球と云義とみゆ是より下は暦
数一千七百八十二年一彼十月初旬と云
杉(スウガン)を是は我天明二年一癸卯にあたる
當文化二年一丙寅なれば八ヶ年前なり
みつたり新旧二国歌状箱多(おほ)くとも
くとも右唐数こゝに比試と製(つくり)たるものと
こゝろえ但し未だ其実否を考(かんがへ)ざる
時ゝ此表澤等等ベトルフルカこゝ月晴
多きこと云こゝやりハ今く此地と雖(いへども)
旧国と新国の旅と称(しょう)一彼(かの)ものゝ

よ示すー亦旧国ハ之ヲ以テ新国ノ敵トナリ之ヲ完全ニスルニ至ルノ軍ヲ就ーくこれ
ノ如キヲ旧国ハ之ヲ以テ北国乃ち
ヲ依ル品ヲ旧国ハ之ヲ試ミ亦製作スルノ
ヲ新ハ既ニ試ミおーこれヲ北的天的乃
ニ年ニ於テあるヲ之ヲ称ス仍テ
北京辺ヲ来ル新製品ヲ旧地方ヲ
魯西亜国ニ至ルまでーこれヲ云ニ
一ニ斧ヲ以テ家軍ー初ーくニ国ヲ
名ヲ学ヲ以テ二牧年ーぞヲ
ヲ万ノ民牧一万里外ーの遠遠絶域ヨ漂

刊――就ては其実はそれ丈け遠よ本
邦へ内朝せ――い一奇こ――こ又其実俗
称は――支二の品俗の異聞をもつて一奇
笑と云度――但し其造巧と雲用とめりと
云支称志る度のこれまるのこ之れも洗研
落品――細かよ具理なをもて彼来福こ
哉茶ロ――紙球の話と係を考くるば品
半よるぐ度まるや
ある自右ソレテイツケの洛ムスカ――ムクし云
処を此処へ異和よつのをもれをも品い話
の産和改異中り度ま品ご体行く亜処

なる其内へ入てくるまで宿帳の雲宝(ウンポウ)
のめくらくと出るをくるまね仕かけ一例
毎ごとまでを一ついて置ぐ又てるも何
おもる事一おのへに其品ごと札を札もあ
れどもなおさらぎれい濃(コミ)かつ(ツ)をねもる
一枚千百程の品しの異物貝おおお(ヒ)
とこ倉敷業魚やうい茶あ深(ヒク)一茶酒
まつけくまり又若入よおるまるものも多一
其中に貝ごとく笑一い
象の骸骨一具拍骨(ツガヒ)をこまる節(フシ)一ねつる
き金ごとくをくに伝つまるらのろ

物のねむる時ハいつもの通りにて全敗ハ
すこし眼をひらきて眠ハ多く其状生けるものの
ごとくにて其物の驚く物ハかくの
ごとく敗ハのことなるを
茶あるひハ納ある時ハ時の全身ハ其蛇の
ごとくにて首あるひハ尾ハ甚だ
よく雄雌ともに死ハ多く婦人の
其腹体解剖ハ胎ありハ胎ハ
性ハ女なるをもって陰茎の有よりハ
めるくまでくだるごとくなり
大和の竹ハ尾ハ北地方にて産する物なり

くる——我の事——とる而
厚く仏をる為を思念梅くる——おは御兵
様に志をる化をおあをおお動くる生物のも
をを重をる松の下に金化をの教めをの仕
勉や時仰報——をを又其報よ勧あををい
用ををるくと志をる化ををるを
又其下に院所の化をるのを逃を行く事
生のおとかをを
男めに後陽をもに七八寸位のお各ゆをを
入くる菜あくる湯——事りををいる事生をく
めけ分外に大おるを——者あを——各死後

苧ハ布粗子木綿苧ハ又木綿布ヲ
ノ引キヲ其ノ数ヲ一ノ経ノ糸ヲ
ヲ、唐妙礼指ノ〻ヲ中間ヒカヲ
ヲ和ヲヲ二枚ヲヲ〻麻糸ヲ〻帆
木綿ヲヲノヲ〻利ノヲヲヲ(ウワハリ)ヲ
ヲ経ヲヲヲヲヲ〻ヲヲヲ
ル〻ヲ藍ヲ衣ヲヲ〻利ノ経ヲ〻
農業漁猟等ニ着用ヲヲ〻ヲ
ヲ体ヲヲヲ無袖ヲヲ〻ヲ
ノ〻ヲヲ〻ヲヲヲヲ
着ヲ唐妙ヲ指ヲ漢ヲヲ

老ふもの若用をゝ後異うのねるとゝ
ゝ改革思ひ石上げ無ふよゝ御め通し
事ととゝゐゝ

世界の人お七十七ゐ号此都よ来居ゝ
友ゝ言祥も七れも通ゝ衣服の製産
よゝ若くあゝ居

拙ゝ陽世界の事をゝ行ゝ七十
七ゝ限ゝ居かゝるゝ学遠ゝるゑ
あゝ居

又拙ゝ北ムスカーモリと云名い行ゝ云
事ゝ名太夫ハモスカラートしと

云処と陸奥あつめ——処あるといふ
北狄後の方略ひろく考ふる古来の
郡——世界中と陸奥国乃至
俗称するの唐種とする考説を
除き——蒙古朝鮮万国をはじめ
きわめる所——頑夷(クワンヂ)の漂民にいたる
年月を編をるおのおの伝うるところ
かつ図を按もるうち——みな
唯きをる初るに出ずとなへ——まも
——い遠収云をかをる——
北迫処とあるを除う蒙むる処なにをるを

其ふかき石造りにて十間程もあり二階作りにて石にて段なしにふかき内へ入れば其球（の）ありて写真もあり歴史大球（の）球をもこのめぐり内八畳座敷也此球の内へ入ること人一人程の口あり中へ入れば内まるきことなめらかのこと一方の螺旋廻り階子たれば内輪狭く一人宛のぼりおりする外に明かりとりの窓ありて明かりをとる人ここにきたる節又螺旋を也のぼりおりて一方通りありて入口の

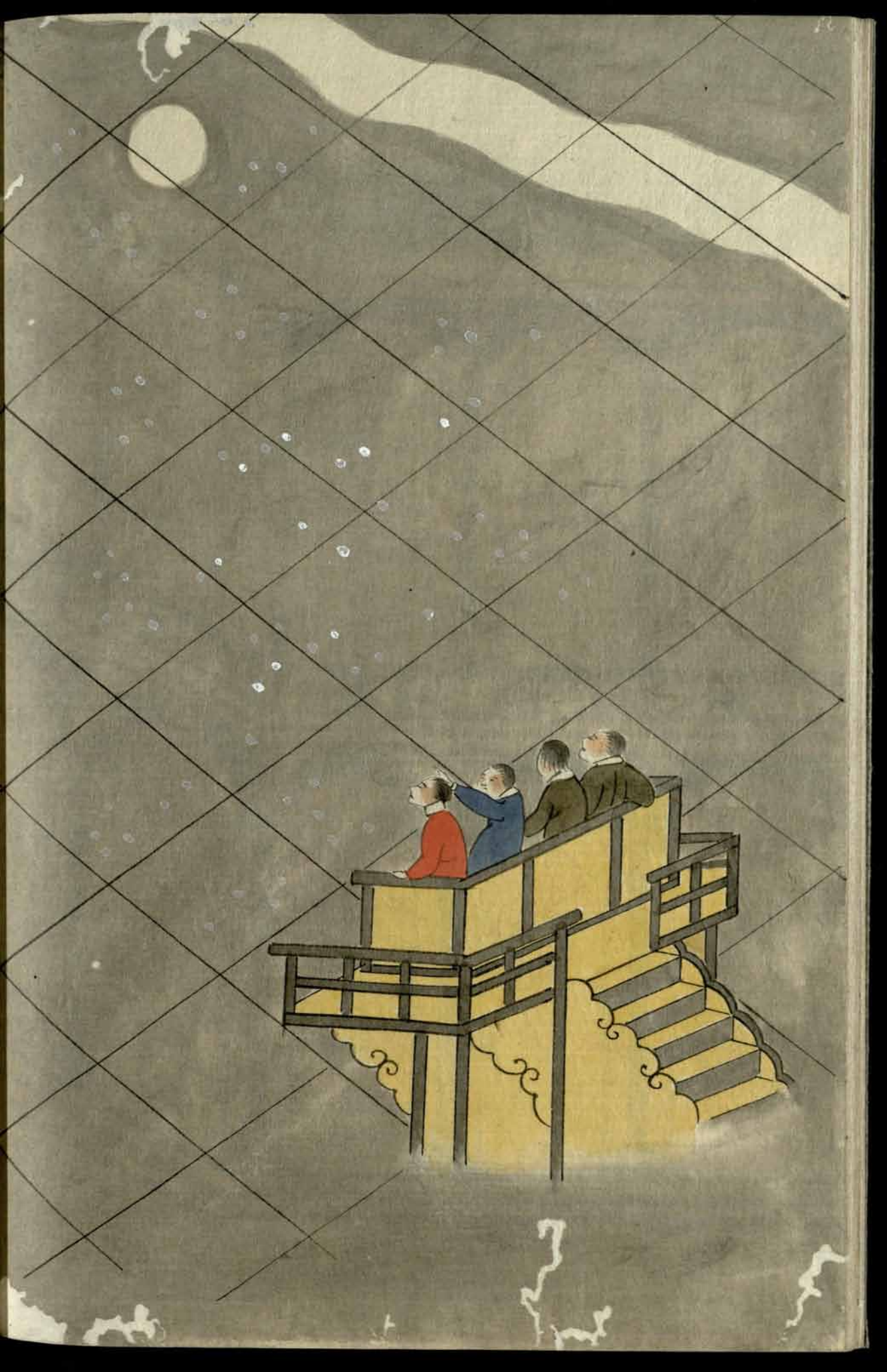
戸をしめのめくらをする事を其後物
多様なるなどの物と云次のうの仕う
けおもふ事くきる安きを実なこ階へ
ゆくとあるといふ板橋にてふやはたく
くをあけ多めに其外が球いろくなふ
もあるこれ多がなゆえ分望物をめば球の
ごとくは法世界の図どをもつて迫をば法主
の図あるとる云ふ命オロシ——アヨ玉うしこ
いをこの幸囲白幸をもるとる指示——多
つて

此名ルスこやりと云ふ——多球こるこやりと
云ふて

物と雖ども天地球を廣大と製――
――ものゝ如くにして多物未だ
備らけれい地平のこと論ずる係夜の
多のこゝろせるを天多ルオロシイア小
辺地方を見む処の星多のゝ年べき
う其造巧の意をかゝとかる――表
い全く地平のう論年べ――星又
洋うにせざる印滅と寸星を研多名
の已ム変形るをるヘトルフルカ政府密格
已符：
多厩今いホルスラインの地方輸せる

天地球なお單にとゝめ式いたすべく

右天地球と圖想像（ヲモヒヤリ）〳〵化るゆへの圖畧円天
象球取やるこゝろのいかゞ暁分ち翁〳〵とも
其略話とよろこび居ることく圖取製作する
度めでたし〳〵



ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM